

# びとう和広 市政報告

発行日：2019年10月1日

発行者：三田市議会議員  
びとう 和広

## 安心・安全で持続可能なまちを！

びとう市議は、三田市議会定例会9月議会において、個人質問し、市の考えを確認し、自策を提案しました。

### <びとう議員 9月議会：一般質問の項目>

1. 急激な高齢社会に向けた健康年齢の延長  
(1) いきいきマイルージと元気な高齢者事業  
(2) 健康スケールの導入  
(3) まちぐるみで支える認知症対策
2. 市民参加で持続可能なまちづくり  
(1) 市民提案制度と成果に対する報奨制度  
(2) ママが活躍できるまち・三田  
(3) 資格制度で市民が講師になる制度

### 3. テクノパークを中心とした産業活性化

- (1) テクノパーク通勤時渋滞の解消
- (2) テクノパーク駅の意義

### 4. 安心・安全な交通

- (1) 公共交通と市の連携
- (2) 自転車レーンをどう考えるか

(問)：びとうの質問や参考事例

(答)：市長や市当局の答弁

(び)：びとうの考えや補足

今回のキーワード：[本当の安心・安全]：私は、認知症のほとんどは、病気ではなく、超高齢化に伴う自然な現象と思っています。何歳でもいきいきと暮らせる社会こそ、本当の安心・安全の社会だと考えます。また、安心・安全に対する思い違いがあることも見過ごせません。

## 1. 急激な高齢社会に向けた健康年齢の延長について

### (1) いきいきマイルージと元気な高齢者事業：

(問) いきいきマイルージの半年の成果は？ノルディックウォーキングやいきいき百歳体操など元気な高齢者事業の普及状況は？

(答) いきいきマイルージは、市民の健康づくり意識高揚を目的に、18歳以上を対象に昨年9月から実施。3月に100ポイント達成しクーポン交換は60名。アンケートで7割が健康意識高揚と回答。達成者の約4割が65歳以上で、いきいき百歳体操や老人クラブ活動補助の健康ウォーキング事業など、身近で気軽に参加し、元気な高齢者の健康づくりを応援している。9月・3月がポイント交換期間で、マイルージ対象事業を追加し、交換期間を増やすなどして、一層の意識向上を図る。今後、ポイント交換機会を増やし、一層の健康づくり意識に繋ぐ。

### (2) 健康スケールの導入：

(問) 船橋市は2015年健康づくり課を組織し、予防事業の一元化、介護予防・疾病予防、健康づくりを一体的に実施し、健康寿命日本一を目指し、健康で元気を実感してもらう物差し「健康スケール」を市独自に創り、個人ごと・地域ごとに提示し、地域で元気率をあげている。

(答) 現在、いきいき百歳体操参加者等の心身の状態把握や効果を評価するため、国が示す認知症「基本チェックリスト」25項目を活用している。健康スケールと類似し、身体状況の一定期間の変化などが分かるので、「基本チェックリスト」を継続したい。今後は活用の対象範囲を拡大するなど、地域ごとの高齢者の状況把握と認知症や介護予防事業への活用を検討する。

(び) 船橋市はチェックリストでは足りないから健康スケールを創った。

### (3) まちぐるみで支える認知症対策：

(問) 認知症は600万人で、小学生とほぼ同数。閉じ込めるのではなく、まちぐるみで支える仕組みが必要ではないか。支える側も①出会う、②仕事を通じてできることを探すというのはどうか？

(答) 日常から認知症の正しい知識を持ち、対応を学ぶ機会として認知症サポーター養成講座を実施し、地域組織やボランティア団体、民間企業・事業者や学校・行政機関等が受講し、2018年度末で認知症サポーターは累計9990人。今後も普及啓発に努める。さらに、支援活動に意欲のある人はスキルアップ講座により地域活動や業務での実践を支援するほか、支援が必要な人やその家族と支援できるサポーターをつなぐ仕組みで、まちぐるみで支える体制を推進する。

認知症予防は、生活習慣病などの予防と、人との交流や役割など社会参加で効果があり、現在、市が推進するいきいき百歳体操では、高齢者が地域で主体となって活動することを基本とし、通いの場として、閉じこもり予防、役割分担で社会参加の場ともなり、認知症予防効果が大きいと期待できる。

今後も、地域のいきいき百歳体操グループの立ち上げや活動支援に対する強化、充実を図っていく。10月にいきいき百歳体操交流会を開催し、一層の活性化を図る。

## 2. 市民参加で持続可能なまちづくりについて

### (1) 市民提案制度と成果に対する報奨制度：

(問) 廃品回収古紙買取を6円⇒3円は、活動資金難や活動意欲低下など影響がある。効果を出した市民提案に、報奨を出す仕組みはどうか。

(答) 市民提案は、市民自身が地域課題を見出し、自らその解決に取り組み、積極的に社会活動に参画する志の表現で、成熟の地域社会の原動力となる。現在、共同提案制度で、改善や文化スポーツ分野に関する地域元気アップ交付金制度の創設を視野に、市民提案に対する支援制度を検討中。市民が提案・利用しやすい支援制度の構築と、初期費用の助成、採択された事業が成功するまでの支援など、仕組みづくりの課題を検討中で、特に学生・若者から積極的な提案を得るためには、インセンティブも必要である。より早く、活用しやすい市民提案制度を構築する。

今進めている「みんなで叶える100のプロジェクト」の内、50は市民提案を受け、高齢者や若者に元気を与えたい。

### (2) ママが活躍できるまち・三田：

(問) 守谷市はママたちの活躍の場を提供し、グループや公募のママが、情報誌の発行・イベント開催・グッズ制作・拠点創りで、市の魅力として発信している。

(答) ママ世代を含む若い女性の活躍推進は、幅広い世代の女性が社会に参画しながら、各意思決定に男性と共同して参画する社会の実現に位置づけたい。市が目指す男女共同参画社会の実現に向けた政策は、女性の起業・就業の促進と、育児や介護など働きやすい社会や職場環境作りに向けた「いくボス」の推進と具現化に重点的に取り組む。

(び) 女性の働き方改革と捉えられ、趣旨が違う。子育てしやすい環境をママたちが創る前向きな提案でした。

## 2. 市民参加で持続可能なまちづくりについて(続き)

### (3) 資格制度で市民が講師になる制度:

**(問)** 船橋市では認知症対策体操の認定制度で、生徒だった市民が講師になる。本人のやりがいを創るとともに市民活動の裾野を広げる効果的な方法だと考えるがどうか。

**(答)** シニア世代の知識や経験は、成熟の地域づくりや子供たちを地域全体で支える上で不可欠である。シニア世代や地域人材の潜在能力を高め、引き出すことが生涯学習の大きなテーマで、市民の学びの成果に対する資格の付与は、地域づくりや後進の育成活動につながる。現在、生涯学習カレッジの専門課程修了者に付与している認定証に、地域で講師として活用できる工夫を加えるよう、導入を各部署にて検討する。また、専門知識を活かし、講師として活躍する事例もあり、取り組み状況やニーズを把握し、地域に応じた仕組みづくりも検討する。

## 3. テクノパークを中心とした産業活性化について

### (1) テクノパーク通勤時渋滞の解消:

**(問)** 以前から訴えている通勤時渋滞の進捗はどうか。

**(答)** ①テクノパーク前交差点の右折車線延伸は、今年度中に、中央分離帯を撤去し右折車線を約30メートル延伸する。  
②県道三田西インター吉川線の拡幅は、道路周辺の工場立地の状況から困難と考えている。  
③市道須丸線とテクノパーク3号線の交差点は、年内に、テクノパークに入る一時停止を、出るほうに切り替える予定。



④都市計画道路第二テクノ線の第二テクノパーク地区外の整備は、現在進行中の県道三田西インター線及び市道下相野広野線の整備後、国道176号や県道黒石三田線からのテクノパーク内の混雑状況を確認しながら整備の必要性を検討する。

### (2) テクノパーク駅の意義:

**(問)** テクノパークに鉄道駅を造れば、通勤時渋滞が無くなり、地域内企業の土地の有効活用、工場増築や拡張、雇用促進、産業活性化になる。

**(答)** 通勤手段が鉄道になれば、混雑解消になる。鉄道駅ができると、社員駐車場も減り企業敷地内を有効活用できるなど企業運営に影響を及ぼし、テクノパークの活性化に寄与できる。

しかし、JR新駅設置の場合、第二テクノパーク内の企業までは2キロを超える移動距離になるなど、新たな駅からの移動手段と駅前ロータリーの整備が必要になる。また、駅舎の整備に約20億円の事例がある。地元請願の場合、地元負担なので、現状では新駅の設置は非常に困難である。

三田市は、混雑解消のため、道路の再整備とテクノパークへの主要な乗り換え拠点であるJR新三田に新ロータリーを整備中。ソフト面では、テクノパーク企業協議会を通じて各企業に「通勤に関するアンケート」を実施し、今後の公共交通機関への転換の可能性など、三田市地域公共交通活性化協議会で議論するとともに、各企業とも連携を図っていく。

## 4. 安心・安全な交通について

### (1) 公共交通と市の連携:

**(問)** 公共交通のトラブルで通勤や工場運営に支障となる。

**(答)** 近年、台風接近時等、災害の発生が危惧される場合、交通各社は、事前に運休を決定する計画運休が多くなった。災害による事故の防止や利用者の安全確保、事前の対応を計画的実施で、社会生活への影響を最小限にする有効な取り組みとして、国土交通省の「鉄道の計画運休に関する検討会議」でも評価されている。しかし、利用者は、その情報が得られないと大混乱となるので、事前周知が非常に重要で、各社ホームページやメディアでも発信されている。また災害以外の臨時的な運行上の支障も、同様である。

市も、災害時には公共交通機関との連絡など情報収集に努め、市ホームページで各社の運行情報のリンク先の貼付など、市民への情報提供に努めている。今後も情報発信の強化に努める。

災害復旧時の課題は、早期復旧や安定運行は社会生活や社会活動の上で非常に重要だが、運行再開は、各社の安全基準に基づいた判断で、安全第一の対応と考える。しかし、判断ができず混乱ばかりの、同様の意見をよく聞く。適切なタイミングでの情報提供が大切である。国土交通省の計画運休に関する検討会議で、周辺自治体への情報提供・連絡体制の確立が求められ、公共交通機関への事故防止や災害時・緊急時の迅速な情報提供などの要望の中で、特にJRに対しては「福知山線(大阪から新三田間)沿線都市連絡協議会」や福知山線(新三田から福知山間)複線化促進既成同盟会の要望の中で申し入れを行う。

### (2) 自転車レーンをどう考えるか:

**(問)** 天神横の自転車レーンは急な坂とカーブで危険である。

**(答)** 自転車レーンは自転車利用増加で、歩道上を無秩序に走行する自転車と歩行者の事故が減少しないことから、「自転車は車両で車道左側通行が大原則」という観点と歩行者と自転車双方が安全に通行できる道路空間の創出を促進するため、国は2012年に「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を策定し、自転車レーン設置を促進している。

三田市も、2017年「自転車ネットワーク」を策定し、駅や学校の近く、自転車量が多い路線から順次整備中。市道横山天神線の自転車レーンは、約660mが完了し、残り県立有馬高等学校西側～県道黒石三田線の約540mを現在施工中。急勾配で、下りはスピード、上りはふらつき、通行車両との事故の懸念があるとのことだが、自転車レーンはカラー舗装を行うことで道路空間を視覚的に自転車と自動車の走行部分を判りやすくし、自転車には車道通行を促し、歩行者の安全を確保している。また自動車等の利用者には車道上の自転車に注意を促し、事故を防ぐ。ペイントで滑りやすくなるので、スピードの出し過ぎなどに注意し、安全通行が大切と考える。

一般道路の安全は、日常のパトロールや通報などで現場状況を確認し、修繕等が必要な場合は、自転車レーン整備以外でも緊急性を持って対応している。今後も自転車レーンは自転車利用者が多い路線から交通状況や道路構造をふまえて順次整備する。

<自宅>三田市西山2-11-13

Tel : 079-562-8653、

Fax : 079-562-0730

<mail>bit@venus.dti.ne.jp

<ホームページ>

http://www.bitokazuhiro.com



三田市議会議員

びとう和広

